

親とともに健やかな育ちを支える

淡路こども園入園前

親の混乱...子どもにどのように関わったらいいかわからない

親の焦りや不安を助長する専門職もいる

早く集団に入れた方が言葉が出る / この子は一生話せない / 相手の気持ちがわからない
/ 言葉によるコミュニケーションがとれない / 本当はわかっていない

親の気持ち

「広汎性発達障害」「自閉症」と診断されると、子どもの行動全てに「だから」と決めつけて関わってしまう。 あたりまえの子どもの姿がみえにくい
親（特に母親）は、“自分がなんとかしないと”という思いが強く、人に頼ったり相談することができにくい。

親の心のケアがない、診断されるだけ、関わり方を教えてくれない

“いま、何かしておかないと”と焦る、藁をも掴む気持ち

子どもがトラブルを起こす / 極端に気を遣う / 親子が孤立 / 止める関わりが多くなり、親子関係がこじれる

淡路こども園での療育

子どもへの支援 身近な大人（両親や保育者）に対して、安心感や信頼感を寄せられる人間関係を築く（発達の基盤）

親への支援 子どもの主体が見えてくるように、気持ちの通じる関係作り

<入園当初の子どもの様子>

一人遊びや一人動きが多い / こだわり / 自傷 / 攻撃行動 / 友達の使っている物を勝手に取る / 抱っこを嫌がるなど

<親の戸惑い>

- ・子どもの行動の意味がわからない、思いを肯定的に理解できない、対応に追われる

例：物を取られても知らん顔、違う遊びをする

泣いている子がいると、ケラケラと笑う、叩きに行く

転んでも平気な顔をするなど

- ・さまざまな性格を持つ親や家族への支援

< 親子への援助 >

はっきりと意思表示する / 表現が増える / 身近な大人の模倣が増える

子どもの気持ちがみえてくる / 子どもの変化を肯定的に見る / なついてくれて嬉しい

卒園後（就園、就学）

- ・ 就園、就学先の方針によって子どもの状況が大きく左右される。本人の主体性、意思が尊重されるか否かが要
- ・ 集団の中では、自己主張がわがままと捉えられやすい
- ・ 「できることを増やす」「一人でさせる」ことに偏りがち
保護者の不安をあおる、判断が揺らぐ
- ・ 親の不安や焦りから、“賭け”のように就園する

大切にしたいこと

- ・ 卒園、卒業後だけでなく、家族が生活しやすいように生活全般を支える
- ・ 幼児期の支援だけでなく、成人期までみこした支援
- ・ 障害のある本人とその家族が本当によかったと感じる支援（ほっとできる、一緒にいて楽しい、分かり合える喜びなど）

最後に

- ・ できることが増えることは嬉しい。しかし、子どもが意欲的にしているのか、支えのもとでできているのかを見極めることが必要。言われるから、こわいからするのでは、意味が大きく違う
- ・ 親子ともに心の支えを持てることが大切（他者への信頼感や必要なときに頼れること）